

ロール  
モデル  
05



柏木 保代

医学科  
小児科学分野  
准教授

富山医科薬科大学卒業  
東京医科大学博士課程修了  
博士（医学）  
2015年より現職

## 研究を続けられた モチベーション

私が出会った最初の指導者はどんなに忙しくても夜に実験をしていました。基礎研究をしていると臨床に活かされると指導を受けました。留学を勧められ、腎疾患の研究をしたいとロンドン大学に入りましたが、英語も話せなくて仲間もできず半年近く落ち込んでいました。泣いても誰も助けてくれません。一人で遅くまで残り、仕事を一生懸命していたら、少しずつ声をかけてくれるようになって、コミュニケーションが取れるようになりました。必ず誰か見てくれているのだと思いました。一人でも頑張り、耐えられたことが、人としての私の自信となりました。

## 研究テーマ (一言でいうと)

小児のおたふくなどのウイルス感染症と、ネフローゼ症候群などの腎臓疾患が専門です。いろいろな病態におけるサイトカインの測定や遺伝子の研究をしています。どの分野においても病態の原因究明と治療を考えています。

## 大変だったこと

私は両親と3人で暮らしていましたが、7~8年前から母が認知症になりました。近所の人から連絡が入ることもあり、常に携帯が手離せない、何事でもありませんようにと祈りながら毎日帰宅していました。夜中にも母の異常な行動で起こされることも度々ありました。急に、職場を抜けないといけなこともあり、また、介護の手続きは平日でないとできなくて、もう仕事が続けられないのではないかと悩みました。1年前に母がやっと病院に入院できましたが、今度は、急に父の身体が弱りました。何度か夜中にお風呂で動けなくなり、引き上げようにも一人ではできなくて途方にくれました。父は、母の入院から半年後に亡くなりました。母は認知症も進み、私のことを「お姉さんが来た」と言うようになりました。チーム医療メンバーの男性医師には、家庭の事情はすべて話していました。いろいろとサポートしてもらい、励まされ、本当に感謝しています。

小児科では、3人目のお子さんが生まれるときに、初めて出産休暇を取得した男性医師もいます。これからはみなさんとサポートし合えるようになると思います。

## 研究の魅力、これからの夢

学生の時から自分では長続きしそうもないと思っていました。また、学生時代の友達には、「すぐに仕事をやめようだね」と言われていましたが、気がつけば随分長く仕事を続けています。基本的に仕事が好きなのです。もう少し頑張ってみようと思っているうちに、仕事は自分の中の芯になりました。臨床と研究を続けながら、疾患の原因究明をし、治療に役立てるものを見つけて、子どもを守る小児科医であり続けたいです。

# 仕事は人としての自信、 絶対に譲れないものだから 続ける

## 未来の女性研究者への応援メッセージ

1つの武器では世界に到達できない  
自分の専門プラス、もう一つ専門を作ろう。

自分にいくつかの武器があると、見方もいろいろな角度から広がります。専門を一つ極めるだけではなく、何かもう一つ専門をプラスしてください。新しい研究、新しい発見ができると思います。そして英語論文を書くことが大事です。両立や息抜きも自分でコントロールしながら、ペースを落とすことがあっても継続は力なりです。世界に羽ばたいて下さい。



## これまでの道のり

中学の女性担任の先生に憧れて、女性も仕事を持ち、また子どもにかかわる仕事をしたいと考えていました。医者である父に勧められて、この道に進みました。もちろん専門は小児科です。研修医として本学に入局し、どういうわけか予定が変わり同期は0人、心細かったのですが、たくさんの症例を担当することができました。一生懸命にやっているうちに仕事がこんなに面白いものなのだとわかってきました。原因究明と治療に生かせるよう、腎臓、感染、ICD(インфекションコントロールドクター)、消化器など、いろいろな専門領域を学び続けています。